

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500085		
法人名	ケアーサービス株式会社		
事業所名	グループホーム かなれ 1階		
所在地	愛知県名古屋市中区東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	令和元年 12月 21日	評価結果市町村受理日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2391500085-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和2年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の以前からの元々の性格をくみ取り、その人らしく心穏やかに生活できるように、またできることはゆっくりご本人様のペースで参加して頂き、自立支援を心がけながら、できないことはそっと支援させて頂いております。また、笑顔で生活できるように支援させて頂いております。室内を清潔に、清掃、消毒等も含め、衛生面にも気をつけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのモダンな外観の事業所は、開設から17年を経て地域の住宅の中に溶け込んでいる。「その人らしさを大切に」という理念の基に、「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし・笑顔絶えない暮らし」を重点目標に掲げ、個々に寄り添って温もりのある暮らしを目指して日々のケアに努めている。運営推進会議の中で、毎回テーマを決めて勉強会をしながら地域の方とも共有を深めている。家事活動や買い物、散歩、趣味の生け花など入居者が今できることを大事にし、傍に寄り添いながら支援をし、喜びや達成感を共にしている。皆の入居者は、職員や周りの入居者相互に支え合いをしながら、自分の足で歩き、自分の身の回りの事を自分のペースで行ったり、気の合う人とおしゃべりを楽しんだりして、その人らしさを発揮しながら生活をしている。日当たりの良い居間では、ガラス越しの日差しを温もりを感じながら、語らったり昔の歌を口ずさんだりして、「ここでの生活」を仲間と楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム かなれ 1階	介護認定に合わせることができる事は一緒に喜び、出来ないことは羞恥心を考慮し、実践している	会社の理念を基に事業所独自の目標を設定している。「その人らしく」を重点目標にして各フロアに掲示している。職員は、一人ひとりに寄り添うケアに心掛け温もりのある暮らしを目指し努力している。理念は連絡帳に貼り業務に入る前に確認したり、会議や研修等で再確認し、行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、外出などで、近所の方とあいさつ等、心がけている。中学生の体験学習を受け入れている。毎年、2名～4名程度	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。資源回収に協力したり地域の役割を引き受けたりして地域の一員としてのつながりを大切にしている。地域の商店や飲食店などの利用や散歩時に近隣の方との挨拶など地域とのつながりを大事にしている。中学生の職場体験を受け入れたり、バイオリンや踊りなどの地域ボランティアを受け入れたりして積極的に交流するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は関わる機会が少ないが、運営推進会議等で生活のご様子等をお伝えする中で、認知症の方へのご理解を少しでも広められるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者と、計画作成担当者が中心となって2か月に1回行っている。後期の日程においてはご利用者様も参加頂く機会を設け、ご利用者様にお話しして頂いたのは良い機会だったと思う	入居者、自治会長、民生委員、連携病院の相談員、薬剤師、地域ボランティア、いきいき支援センターの職員の参加を得て年6回実施し、運営状況や活動内容、ヒヤリハットや事故報告などの報告をしている。今年度から入居者の活動の様子を写真などで分かりやすく紹介し話題の提供をしたり、出席者との情報の交換をしている。また、薬剤師から薬についての勉強会も実施している。参加者からの意見や提案等はその場で話し合ったり、記録して会議などで協議しサービスや技術の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が中心に行っている	行政担当窓口には介護保険更新の手続きや申請の代行業務等で訪問した折に、情報交換をしたり入所事例などで指導や助言を得るなど良好な協力関係を築いている。市主催の事業者講習会や研修には参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体に取り付ける拘束は断じてしてはならないが、玄関の施錠に関しては、交通量も多く、ケガ防止も含め行っている	身体拘束等のマニュアルを各ユニットごとに置いて意識を高め、身体のみならず、言葉や心の拘束にも配慮して、束縛感のない環境づくりに努めている。機会あるごとに拘束に対する話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図るようにしている。玄関は交通事情により安全のために施錠しているが、家族からの同意を得ている。入居者一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	書面にて各職員は、目を通し、把握している上で、見過ごすことのないように業務にあたっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会が少ない。関係者と話し合うことは管理者が行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にご家族等の意見を表せることが出来るよう、「ご意見箱」を用意している	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは面会時やケアプランの更新時にアンケート調査をしている。また、生活や趣味、医療・健康面や介護の方針などの要望を聞き、ケアや業務改善に役立っている。管理者から手書きの便りと、日ごろの様子や外食、行事の写真を記載したホーム便りを同封して家族に安心を届けている。意見箱を設置して意見を述べやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者には常に職員の提案、意見を聞いて頂いている。代表者には会うことがなかなかない	管理者は、日常の業務の中や申し送り時、また月1回のユニット会議等で職員から提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。常に職員の声に耳を傾け、なんでも話しやすい環境作りに努めている。人事考課による管理者との面談が年2回行なわれ、意見や提案、悩みなどを話せる機会を設け、業務や職場環境などに反映させているが、システムが変わったことで不安を抱えている職員にはていねいな対応をするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を含め、職員が向上心を持てるような整備になかなか努めきれていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社が京都である為、力量を把握しきれていない部分もあるように見受けられる。人材不足もあり、なかなか満足に研修を受ける機会がない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか学ぶ機会が少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な要素はできるだけ取り除き、困っていることはさりげなく、受け入れ、手助けできるよう徐々に関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心情を聞き入れ、安心できるよう配慮し、信頼を積み重ねることができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべくたくさん会話をし、その中で見極め、何が必要なのか考え、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しい時、悲しい時を協同し、1日、1日を共に大切に過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族に定期的に伝え、時には家族と一緒に考え、一緒に支えあう努力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所については全員の方に支援はできない現状がある。馴染みの人が来訪された時には、共に一緒に時間が過ごせるような環境の提供を行っている。〈家族・親戚・友人・民生委員等〉	アセスメントシートやアンケートから生活歴や馴染みの人、場所を把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。友人や知人と旧交を深めたり、親戚の方と居室で昔話などで過ごせるよう配慮したり、家族の協力を得て花火大会に出掛けたり、自宅に帰って家族と過ごしたり、馴染みの人や場所の関係が途切れないような支援に取り組んでいる。また、切り花を購入して部屋に飾ったり、新聞や雑誌を見るなど日常生活の継続を生かした支援も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性が似合った同士が関わり合えるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様からのご要望があれば、出来る範囲で応じる機会を作っている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いに添うよう努めている。年齢も、生活してきた環境も、ご出身もさまざまなので、なるべくお一人お一人に寄り添いながら要望をお聞きしている。要望がお聞きできない方は、ご家族様や、ごきょうだいからお聞きしたり、生活歴等をヒントにしながら、その方の望まれるような支援に努めている。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、日常のさりげない会話や表情などからくみ取ったり、一対一の対応時などから聴き取った事を連絡帳や介護記録に記載して、職員間で話し合い共有してケアにつなげている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をして、一人ひとりの思いに寄り添う支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、又は家族に今までの暮らし方を聞き、なるべくサービスに取り入れることが出来るよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースにあった過ごし方を取り入れるよう努力している			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1度職員でミーティングを行い、話し合いの場を設けている	ケアプランの短期目標をケース記録に載せ毎日確認し評価している。情報は職員間で共有しながら実践に取り組んでいる。6か月ごとに担当職員が健康面や食事、日常生活などについてモニタリングを行い短期目標を立ててサービス担当者会議で話し合っている。1年に1回介護計画の見直しを行い、医師や看護師など関係者の意見や家族アンケートも反映させながら、問題や課題について話し合っって現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その場でその都度気づいたことは、職員同士で話し、職員活用の連絡帳を作っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化していることを念頭に置き、チャレンジ精神を失わず支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日ではないが、個人差はあるが、喫茶店、買い物等支援できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	まずは家族のご意向を第一に考えかかりつけ医に要望を聞いて頂いている。	家族の希望を優先にしてかかりつけ医の往診を受けたり、月2回の提携医による内科医の往診を受けることができる。週1回訪問看護師により日常の健康管理と変化があれば適切な指示が受けられる。また、希望する方には、歯科衛生士による口腔ケアや歯科医による治療なども受けられる。専門医の受診は家族の協力を得ているが、状況に応じ職員が付き添ったり、緊急時には臨機応変の対応をしている。受診の際は、医師による診療情報提供書と病状経過や日常の様子などを記載した記録を持参し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ささいなことでも訪問看護師に相談をし、適切な指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携はしっかりとれている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、管理者を交えて、ご希望に添うことができるよう支援している	重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度、医師から説明と入居者や家族の希望を再確認し見直しを行っている。医師や訪問看護師と24時間の支援体制を整え、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員会議の中でターミナルケアについての話し合いや職員のメンタルについての研修も行い、職員の気持ちを統一するよう努力している。また、新人職員などには常に声掛けをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を行っていないが、急変時には管理者に連絡するよう連携している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を活用している。夜間想定訓練も行い、人が少ない時でも装置等を利用し、すばやく避難、通報できるよう日頃から訓練している。	年2回のうち1回は、消防署員の協力を得て防災マニュアルを利用し、火災や地震など様々な災害を想定した避難訓練を昼間や夜間の職員体制で実施している。避難誘導や避難経路の確認や消火活動などの指導や助言を受け問題点は職員で話し合い改善に努めている。備蓄品は水や食料、カセットコンロ、など職員の物資も含め3日分が用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し、その方に合った声かけ対応をしている	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。施設外研修で学んだ内容を連絡帳に貼って注意を促したり、入居者と慣れ親しんだ関係であるが故に、今、一度見直すことも忘れないようにお互いチェックし合っている。入居者の生活スタイルを変えないように心穏やかに生活できることを重視して個性や人格、相性や性差などを考慮した言葉使いや対応に努め、思いやりと笑顔あふれる暖かい環境作りを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引きだせるような声かけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でその方のペースにあった行動はしているが、まだまだ十分にはできておらず		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは絶対に必要とし、常に心がけて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片づけは限られた人になるが、温かくおいしく食事ができるよう努力している	食材は業者から届けられ、管理栄養士の献立を基に入居者の希望を取り入れた献立にアレンジして、季節感のある食事や今まで慣れ親しんできた家庭料理、手づくりおやつなどを提供している。入居者の保有能力に合わせて調理や盛り付け、片付けなどその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。木曜日は魚屋さんが届けるお刺身の日やイベントでカレーライスを作ったりして食への関心を持てるよう工夫している。外食も楽しみのひとつになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	とろみをつけたり、摂取しやすいようなコップを選び、水分確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指示の下、その人にあった口腔ケアを行っている。ご状態によって、歯ブラシだけではなく、タフトブラシ、口腔開口具やスポンジ等も使用し、口腔内の清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ内に排泄できるよう一人一人の排泄のリズムに合わせ誘導している。必要な方については、排泄チェック表を作成し、水分と排尿量の把握に努めている。	個々に合わせた排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は可能な限り自力での排泄を目指している。夜間も尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にし、見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の食物を提供し、牛乳、センナ茶、服薬等で排便コントロールに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、曜日は決定しているが、リラックスできるような雰囲気作りに努めている	入浴は一人ひとりの体調や状態を考慮して週に2回、個浴や二人介助の機械浴で気持ちよくゆっくり入浴が楽しめるよう配慮している。冬季浴室は暖房機やシャワーを利用し、浴室内を暖めヒートショックに配慮している。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したり、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。入浴後は化粧水などを利用して肌の乾燥に注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床を取り入れている、入床前は安心して眠れるような声かけ、寄り添う等行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解しているとは言い難い。特に新人については、難しい部分もあるので、支えていくことも必要であると感じている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲内のことを押し付けず、支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、屋内散歩等支援している	お天気の良い日には散歩に出かけられる環境にあり、季節の移ろいを感じ取れるような機会を大事にしている。入居者一人ひとりの希望にそって、喫茶店や外食、ショッピングセンターで買い物などの外出支援をしている。また、初詣や季節の花見に出かけるなど入居者の希望が叶えられるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いについては、一括で管理してしまっているが、お小遣い帳をつけて、残金の把握している方もいらっしゃる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が可能な限り支援している。絵のお好きな方については、ごきょうだいに絵のお手紙を書いたりしている方もいらっしゃる。できる範囲で続けていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者がわかりやすい作りになっている。季節の折々にはイベントを催している。リビングにおいては、ゆったりとすごせるような配置に努め、床暖房、エアコンにて温度調整をし、快適な温度で過ごすことができるよう努めている	玄関から居間に続く廊下の壁には毎月の行事の写真が掲示され入居者は、写真を見ながら様子を思い出し懐かしんでいる。居間は床暖やエアコンで快適な温度を保ち、加湿器などで湿度管理をして風邪などの予防対策をしている。居間は、日当たりがよく明るく風通しの良い生活空間で、壁には季節ごとの飾り物がさりげなく飾られ落ち着いた雰囲気になっている。居間と食堂は兼用で、入居者は、ソファでくつろいだりテレビを見たり、食堂の椅子や広い廊下の和風ベンチに腰かけて休憩したり、おしゃべりしたりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よく会話をする方、それぞれの個性に合わせたり、素のままでもいられるような居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具・小物・写真など落ち着いた、安心できるよう努めている	居室入り口には、表札を掲げ自宅玄関の雰囲気になっている。部屋には洗面台が備え付けられ、毎日の歯磨きや、入浴後の肌の手入をしている。また、使い慣れた整理筆筒やお気に入りの椅子、テレビや位牌などを持ち込んだり、趣味の水彩画や手作り作品、写真などを飾って居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは手の届かない場所に置き、安全かつ、自立活動ができるよう工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500085		
法人名	ケアーサービス株式会社		
事業所名	グループホーム かなれ 2階		
所在地	愛知県名古屋市中区東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	令和元年 12月 21日	評価結果市町村受理日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2391500085-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和2年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の以前からの元々の性格をくみ取り、その人らしく心穏やかに生活できるように、またできることはゆっくりご本人様のペースで参加して頂き、自立支援を心がけながら、できないことはそっと支援させて頂いております。また、笑顔で生活できるように支援させて頂いております。室内を清潔に、清掃、消毒等も含め、衛生面にも気をつけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのモダンな外観の事業所は、開設から17年を経て地域の住宅の中に溶け込んでいる。「その人らしさを大切に」という理念の基に、「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし・笑顔絶えない暮らし」を重点目標に掲げ、個々に寄り添って温もりのある暮らしを目指して日々のケアに努めている。運営推進会議の中で、毎回テーマを決めて勉強会をしながら地域の方とも共有を深めている。家事活動や買い物、散歩、趣味の生け花など入居者が今できることを大事にし、傍に寄り添いながら支援をし、喜びや達成感を共にしている。皆の入居者は、職員や周りの入居者相互に支え合いをしながら、自分の足で歩き、自分の身の回りの事を自分のペースで行ったり、気の合う人とおしゃべりを楽しんだりして、その人らしさを発揮しながら生活をしている。日当たりの良い居間では、ガラス越しの日差しを温もりを感じながら、語らったり昔の歌を口ずさんだりして、「ここでの生活」を仲間と楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)		介護認定に合わせできる事は一緒に喜び、出来ないことは羞恥心を考慮し、実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時のあいさつを行い、学区の中学生の体験学習の受け入れ、交流を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり積極的な取組はしていないが、運営推進会議の時にここでの生活のご様子の報告や実際にご利用様とお話し頂く中で地域の方に少しでも、ご理解頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、管理者、計画作成担当者が中心になって行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が中心になって行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険行為が予測される為、施錠はしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	正しく理解し、実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	深い理解はしていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心になって行い、最善をつくしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なかなか代表者に会う機会はない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6月から運営会社に変更となり、変わったこともたくさんできた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の不足や利用者様の重度化も重なり、なかなか研修に行く機会がない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか機会が少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	すべてのご要望に応えることはできていない		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との関係は良好と思われる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様個々の状況に合わせたサービスを家族様と相談しながら行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務が忙しい時は、なかなか意識がうすれる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とコミュニケーションを取りつつ、一緒に支援させていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行えている。ご家族・ご友人・ご親戚が来た時には居室でリラックスした中で過ごして頂ける環境に努めている。ご家族様と積極的に外出される方もいらっしゃる		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	理解できない場面もあるが、スタッフが支えあうよう促しをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の連絡は継続がなかなかできていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人、お一人に寄り添い、ご希望をお聞きし、ご希望・ご意向に添うよう努力はしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に積極的に取り組み、安心して生活して頂ける様支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の重度化が進んできていることもあり、注意深く行っている。日々変化が伴っているように感じる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の状況を把握し、スタッフ、ご家族様も交えて情報交換をしつつ行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が不十分な時がある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲内で対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を十分には活かしかれていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者各々の状態に併せて、2週間に1度、基本は往診対応をして頂き、必要があれば、追加往診等の対応になる場合もある		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師の訪問があり、往診医に詳細に報告できるよう、事前に細かな情報提供を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	どちらかという病院の意向に従っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期になった時には、ご家族様と医療機関、施設との話し合いをする機会を設けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に話しあっており、消防点検の際に、消防訓練も行い、夜間想定も含めた訓練に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々心がけている。ご利用者様お一人お一人の人格や生活歴等を把握し、お声かけや対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的には行っていない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在スタッフの配置が十分とはいえず、希望に添えないことが多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ支援している。ご希望のある方は、お化粧品をして毎日のおしゃれを楽しんで頂ける様努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	充分とはいえませんが、日々一緒に準備、片づけを行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフ間で話し合いながら行っている。必要な方については、水分量の記録を行い、排尿量との比較もしながら、水分摂取に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、残渣物が口腔内に残らないよう、全利用者様に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に応じたケアを行っている。トイレ使用・誘導できる方はトイレでの排泄に心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬、牛乳、センナ茶等で調整をとりながら、繊維の多いものを摂取し、便秘が改善されるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望にそった入浴はできていない。入浴日、時間は決めてしまっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転している利用者様の対応に苦慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充分とはいえないが、できる範囲で努めている。生花が常にほしいと言われるご利用者様にはできる範囲でご要望に応えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なかなか時間がとれず、でかけられない現状がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	充分とはいえない。なくしてしまうことも予測されるので、所持はしていただいていないが、お小遣い帳をつけて、ご自身でのお金の残金等の把握をされている方はいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまりできていない。かかってきたお電話はおつなげしているが、なかなかこちらからかける機会は少ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。暖かな日差しが入るような、席の配置をしたり、ソファでゆったりくつろいで頂いたり、飾り物やお写真をかざり、季節感を感じて頂ける様努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が孤立しないよう気をつけている。逆にお一人になりたい時には居室にご案内をし、思い思いのお時間を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、なじみの物をお持ち頂き、その人らしい居室作りに努めている。中には帰宅願望の強い方もいらっしゃり、日頃の整理整頓が難しさを感じる時もある		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく、本人様のできる事は参加していただき、できないことをそっと支援させて頂ける様な環境を提供したいと考えているが、時には制約を作ってしまうことがある		